

ご存知ですか？「在宅医療」 ～自宅で安心して暮らしたい②～

「在宅医療」が求められる背景

高齢化が加速する中、人生の最期を迎える場として、病院や施設が約8割を占めています。一方で、そのときの状況にもよりますが、自宅で最期を迎えたいという人は、7割を超えていることが厚生労働省の調査により明らかになっています。

これは、多くの方が、自宅で看取られたい希望がありながらも、実際には容態が急変すると、病院や施設に頼らざるを得ない状況になっていると言えます。しかし、病院も施設も慢性疾患を抱えた高齢者が増加し、受け入れが困難な状況です。これらの背景から、国は、病院や施設ではなく、自宅で最期を迎えられるよう、「在宅医療」を推進しています。

在宅看取り ～半田市は全国トップクラス～

過日（7月7日）、中日新聞等において、全国の自治体ごとの在宅死割合（死亡者のうち、死亡場所が自宅だった人の割合）が記事として取り上げられ、半田市はその割合が、人口5万人以上20万人未満の自治体のうち、在宅死亡割合が全国9位（愛知県下1位）であることが掲載されました。

自宅で最期を迎える「在宅看取り」が半田市で多い理由として、必要時に24時間対応する在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションをはじめとする在宅医療・介護関係者の活躍の拡がりや、その関係者間の連携強化等の体制が推進できていることが言えます。

市町村別の在宅死の割合 人口5万人以上20万人未満	
兵庫県豊岡市	25.60%
東京都中央区	21.50%
千葉県浦安市	20.50%
奈良県生駒市	20.10%
千葉県大網白里市	19.90%
東京都立川市	19.60%
佐賀県鳥栖市	19.50%
福島県伊達市	19.40%
愛知県半田市	19.30%
岩手県北上市	19.20%
奈良県天理市	19.20%

そこで、今回は在宅医療や看取りにご尽力いただいています もみやま医院 院長 粉山医師、すみれ訪問看護ステーション 管理者 森田看護師に在宅医療の現状についてお聞きしました。

自宅で安心して医療が受けたい 人のために力になりたい

■在宅医療の必要性を痛感

日本は、医療の進歩により長寿社会の実現を果たすことができました。その一方で、慢性疾患を抱えながらも、体力の低下等の理由で通院困難な高齢者が増加しています。このような状況から、在宅医療の必要性を痛感しています。

一般的に在宅医療の現場は、私のように普段は診療所で外来診療を行いながら、昼休みなどに訪問診療を行っている在宅主治医がほとんどです。もちろん、緊急時や看取りの際には訪問看護師と連携して、外来診療中でも深夜でも、24時間・365日対応をしています。



もみやま医院 院長 医師 粉山 嘉樹さん